

令和6年第1回中津川市教育委員会（定例会）議事録

日 時 令和6年1月24日（水） 午後1時30分～

場 所 にぎわいプラザ 4-1会議室

出席委員 教育長 岩久 義和
委 員 田島 雅子 三尾 和樹 橋本 あみる 山本 亮

事務職員 三宅事務局長・氷室教育次長（兼）学校教育課長・河合事務局次長（兼）教育企画課長・吉村文化スポーツ部次長（兼）文化振興課長（兼）市史編さん室長・松原教育研修所長・伊藤施設計画推進室長・安江幼児教育課長・青木発達支援センターつくしんぼ所長（兼）発達支援センターどんぐり所長・園原阿木高等学校事務長・渡邊文化スポーツ部対策官・早川生涯学習スポーツ課長（兼）少年センター所長・青木図書館長（兼）蛭川済美図書館長・宮嶋鉱物博物館長（兼）東山魁夷心の旅路館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教 育 長 報 告
4 議 事
5 閉 会

日程	議 事	件 名	結 果
第1	議第1号	令和6年度中津川市教育委員会主要事業について	承 認
第2	議第2号	中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について	承 認

■教育長 本日は4名の委員の出席を確認し、ただいまから令和6年第1回中津川市教育委員会を開催いたします。

日程第2、前回議事録の承認につきましては、回議といたします。

続いて、日程第3、教育長報告を行います。前回の定例会以降に出席した主な行事を中心に報告します。

12月14日は教頭会と県教育委員会との人事懇談に出席しました。この懇談は19日と21日にも行い、全校長との人事に係る懇談を終えました。15日は総合教育会議を開催させていただきました。学校等の適正配置計画並びに土日部活動の地域移行について、資重なご意見を頂戴しました。ありがとうございました。22日は市議会最終日、25日は蘇南高等学校地元市町村協議会に出席しました。27日は管理職任用第2次選考に係る事前勉強会を行なったのですが、そこに記載がないのは、私が26日にインフルエンザに罹患し、27、28日と仕事を休ませていただいたためです。

年が改まり、5日は他市に赴任している校長4名か来庁してくれました。とても元気な様子で近況報告をしてくれました。7日は二十歳の集いに出席しました。今年は概ねコロナ禍前の方法に戻すことができました。人生の節目を迎えた皆さんの爽やかな表情や式に臨む姿がとても良く、とても素敵な式典になりました。文化スポーツ部の皆さん、お疲れさまでした。10日は毎年審査委員長として参加している消防職員意見発表会に出席しました。12日は都市教育長会役員会に、13日は消防出初式に出席しました。15日以降は市長・市議の補選の当選証書付与式、青山市長の退任式、小栗市長の着任式に出席しました。なお、本日夜に予定していた教育評価委員会は、この天候のため延期の方向にしています。ご承知おきください。

続いて今後の主な行事です。26日は東濃地区教育長会に出席します。29日は伊勢市との給食交流会が付知南小学校で行われ、市長、議長らとともに出席します。31日は校長研修会に、2月7日は教頭会、9日は岐阜県都市・町村教育長冬期合同研修会に出席します。私からは以上です。

次に事務局及び文化スポーツ部からそれぞれ報告をします。

三宅事務局長。

■事務局長 初めに年明け以降、市の信用失墜につながる事案が立て続けに発生したことは、誠に遺憾であり深くお詫びいたします。今後二度とこのようなことがないよう職員一同気を引き締めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしく願いたします。この件に伴い、1月11日に臨時に四役・部長会と事務局連絡会を開催し、全職員に綱紀粛正と職務規律の徹底を周知しました。

前回以降の主な出席行事について報告します。12月14日に教頭会、15日に

皆様方にご出席をいただいた総合教育会議、18日に花王様からの寄附受領式、19日に市指名審査委員会、20日に幼保管理職候補者試験、21日に定例記者会見、28日に仕事納式、年が明けて1月4日に仕事始式と四役・部長会、7日に二十歳の集い、9日に末松先生とのウェブでの打合せ、13日に消防出初式、15日に市長と市議会議員に当選された方の当選証書付与式、17日に県教育長の福岡小学校の視察への対応、19日に青山市長の退任式、22日に小栗市長の就任式と四役・部長会、市指名審査委員会に出席いたしました。

次に12月市議会は、12月18日に予算決算委員会、22日に本会議最終日が行われ、全て可決をいただきました。

今後の予定です。1月24日、本日、教育評価委員会の予定でしたが、悪天候により延期になりました。25日に定例記者会見と幼児教育・保育施設運営協議会、29日に伊勢市との給食交流会を付知南小学校で行います。31日に校長会と坂本まちづくり協議会教育文化部会、2月7日に教頭会が予定されています。以上です。

■教育長 続いて文化スポーツ部からお願いします。

代理で吉村次長、お願いします。

■文化スポーツ部次長 文化スポーツ部に関わる主な行事や事業について報告します。12月14日、令和5年度第2回目の落合本陣整備計画策定委員会が開催され、史跡調査結果による報告を受け、建物等の価値付けや保存範囲などについて協議されました。15日、国民体育大会カヌー競技2種目で優勝のほか、2023年アジアカヌースラローム選手権大会でも優勝した田中雄己選手（第一中学校出身）が、パリオリンピック2024出場枠を獲得され、喜びの報告をされました。本市においてはパブリックビューイングなどを実施し応援したいと計画しています。17日、蛭川歌舞伎公演が4年ぶりに開催され、地元の子供たちを含む28人が情感たっぷりの演技で観客を魅了しました。20日、図書館協議会が開催され、第二次図書館サービス計画策定について協議されました。21日、令和4年に2千万円の寄附を頂きました増田元昭氏の紺綬褒章伝達式を市役所で行いました。寄附金の一部を使用し、図書配本用車両の更新をさせていただきました。また、第2回部活動の地域移行検討委員会では、今回から保護者クラブ代表者8名にも参加いただき、具体的な検討に入っています。26日、3Dプロジェクション歌舞伎が愛知県岡崎市の岡崎城二の丸能楽堂で初開催され、東濃歌舞伎中津川保存会が実演し、伝統芸能とデジタルアートの映像が融合した3Dプロジェクションとして、岡崎城の夜が幻想的な雰囲気でもつまれました。12月26日は徳川家康の生誕の日ということでイベントが開催されたものです。

1月7日、令和6年二十歳の集いは対象者835人中651人の参加を得て厳粛

な雰囲気の中で行われ、代表者3名により二十歳の誓いが力強く宣言されました。また、田島委員にも代表で参加いただきありがとうございました。23日、全国のB&G所在自治体の市長・教育長等が参加するB&Gサミットが東京で開催され参加しました。なお、市長・教育長にも出席いただきました。

今後の予定です。1月26日、リレーマラソン実行委員会で、第7回大会の令和6年5月26日の開催に向けた協議が行われます。同日、文化財防火デーに伴う消防署の火災防御訓練が苗木城址で行われます。30日、中津川市文化協会長会議が開催されます。2月7日、福島県石川町議会の常任委員会が鉱物博物館を行政視察されます。以上です。

■教育長 ただいまの報告につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 三宅事務局長に伺います。1月9日に末松先生と打合せされたということですが、末松先生の様子を教えてください。

■教育長 三宅事務局長。

■事務局長 打合せの目的、内容は、令和7年8月に第30回のGSSS（岐阜サマー・サイエンス・スクール）を迎える予定です。今年の8月が第29回なのですが、今からざっくばらんな打合せを月1回ぐらい定期的に行っているところです。先生もご高齢ですがしっかりしておみえで、30周年に向けた意欲には並々ならぬものがあります。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 教育長の12月25日の蘇南高等学校の地元市町村協議会は、地域間協定で何か変化があったのか、今まで通りなのか、お聞かせください。

■教育長 この会議は、蘇南高等学校がある南木曾町並びに近隣の村、それから中津川市が参加しているものです。岐阜県教育委員会が長野県教育委員会と結んでいる協定があり、近隣地域で高校生が相互に、長野県から岐阜県の高校に、岐阜県から長野県蘇南高校に行ってもいいことになっています。その関係で私も参加しています。定例の会議ですし、中身については大きな変更もなく、蘇南高校のエリアと中津川市の中央線沿線の高校に越境して入学できるという協定については変更ありません。

今回特に話題になったのは、木曾南部の児童生徒数がものすごく減っているということで、いかにして地元唯一の高等学校である蘇南高等学校を活性化し存続させるのか、そのために地元町村にどんな努力ができるのかということで、町長、村長、両議長も出席されました。本当に真剣に考えてみえますし、県立高校であるにもかかわらず、南木曾町は町費の一部を学校サポートに使うということも実施していま

す。今後も続けたいと首長自ら意見を述べてみえました。加えて、南木曾町長自身がこの会議の会長でもあり、「大事な高等学校だから行政、地域住民一体となってしっかり守っていこう」という姿勢が極めて強く受けて取れる会議でした。

ほかはよろしいですか。

ご質問等がないようでございますので、日程第4、議事に入ります。

議事日程第1 議第1号「令和6年度中津川市教育委員会主要事業について」提案説明をお願いします。まず教育委員会のものを説明し、ご質問を受けます。その後、文化スポーツ部について審議いただき、議決は最後にまとめて行います。

河合事務局次長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 教育委員会分について説明させていただきました。教育企画課から順にご意見、ご質問を頂戴します。教育企画課の主要事業についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 4ページの総合教育会議等の開催というところで、年に2回ぐらいはというお話でしたが、河合課長がおいでになってからは懇談会を行なった覚えがないですよ。年1回だけ総合教育会議ということで市長と私たちが対面してお話できるということなのですが、懇談会は覚えておられませんか。

■教育長 懇談会は覚えています。今から10年ぐらい前はフォーマルな形での総合教育会議がありました。それがどこまで続いていたか、私はここに籍がなかったので分からないのですが。もう一つ、インフォーマルなものを設けていました。それは議事録も作成しないで、首長、教育委員、当時は教育委員会制度も違っていたので教育長も入ってざっくばらんに話をするもので、その会を懇談会と称していました。実質的にフォーマルなものインフォーマルなものが1回ずつあって、年2回という形でした。

■田島委員 確かにインフォーマルとフォーマルなものがあり、録音をしないのでそのときには本音が話せました。本当にざっくばらんに話し、私たちがやりたいこと、市長の思っておられることなど忌憚ない話ができなのが懇談会でした。総合教育会議に向けてという形でもありました。あまり角張ってないけれども私たちの教育に対する情熱のようなものを聞いていただく会がありました。ここにまだその言葉が残っているので、年に、懇談会を1回、総合教育会議を1回やるという考え方はいかがでしょうか。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 今お話しいただいたように、環境がいろいろな形で変わってきて整いつつあると思っています。例えばコロナが明けた、市長が変わったという環境の変化がありますので、今のようなお話を頂きながら総務課と協議してまいりたいと考えています。

■教育長 開催時期については、事務局のプランはありますか。
河合事務局次長。

■事務局次長 例年、主要事業についてテーマを設けてお話しするのですが、テーマについては年度の目玉として協議いただき、また、教育委員会事務局としてずっと動いているので、そういうところについて市長、教育長、教育委員とで認識を高めることができればと思います。その趣旨で、年度当初と年度末もしくは年末にできればいいと考えています。

■教育長 文化スポーツ部も含めてですが、教育・文化に関わるさまざまな施策を次年度予算に反映することができるようにうまく総合教育会議を活用したいというご意見も、以前から委員さん方から伺っていますので、そんなことも含めて、次年度の計画を事務局で文化スポーツ部とともに検討し、より良いものにしていただけるとありがたいと私も思います。よろしくお願いします。

橋本委員。

■橋本委員 教育企画課と施設計画推進室それぞれに、「学校規模等適正化事業の推進」が行われると書いてあるのですが、どのように連携しているのか。また、保護者と地域への議論、説明の順番、タイムスケジュールのマニュアル的なものがあれば教えてください。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 適正化については、基本的に、幼児教育の部分と学校の部分があり、小中給食調理場については施設計画の方で現場対応し、幼保こども園については幼児教育の方で現場対応とし、教育企画課はハブの役割で、計画自体と進捗管理のところまで共有して参加していきます。

あと、タイムスケジュールは、それぞれ個別の園、学校について、これまでのテンプレート的なものを、基本的な部分は今後も流用して活用していきます。ただ、それぞれ地域の考えや保護者の考えがありますので、その辺は杓子定規にならないよう、地域性を考慮しながら変更しつつ適用していきます。

■教育長 施設計画推進室から追加はありますか。

■施設計画課 ありません。

■教育長 幼児教育課はいかがですか。

■幼児教育課 大丈夫です。

■教育長 橋本委員。

■橋本委員 移動教育委員会するとき、統合について、事務局や行政サイドでは、まだ決まってないので説明することもそんなにないという状況でも、保護者は噂などから「合併するのではないか」というのがありました。情報の受け手と出し手のタイミングがちょっと違うと感じます。保護者が噂で議論や自分の考えを持つことなく、正しい情報で判断された方がいいと思うので、その辺のタイミングを見計らっていただければと思います。

■教育長 ご示唆として承ります。ありがとうございます。

田島委員。

■田島委員 教育企画課の、移動教育委員会について。コロナのときと今年度、ああいう形でユーチューブを見ていただいたのですが、以前の形に戻すことは考えておられませんか。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 ユーチューブの配信を2か年やって見えてきたものが一つあります。それは、教育委員会事務局もしくは文化スポーツ部として、今回のような主要事業、伝えたい内容をできるだけ幅広く皆さんにお伝えする手段としては有効だということです。ただ、直接話すより具体的に吐露される部分もあると思いますので、今後は可能な限り現場に行く機会を設けたいと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 コロナ前に何十回と移動教育委員会をやっていらっしやって、ちょっと詰まってきたというところも見えていました。各々グループになってやっていたときが最後で、親たちの悩み事を出すという状態だったのですが。移動教育委員会に代表で来た方はPTAなどの重要な役割をやっている方々です。PTA活動が今あちこちで非常に弱くなっている、行方不明状態になっているというニュースを聞いていますので、一つの伝達手段として、PTAの上の方々が末端の方々に頂いた資料を渡していくという行為も、PTAの活性につながると考えています。できればまた対面でやるといいと私は考えています。

■教育長 新市長の公約の中に、市民との対話を広く実施したいというのがあります。中身はどんなテーマになるか分かりませんが、どんなやり方を市長が望んでいるかも分からないのですが、そういった対話集会的なものをやるとなると、教育もその内容に入ってくる可能性が十分あります。なので、今後、市と市民との対話集会がどのように持たれていくのかということも考えざるを得ないと思います。

もう一つは、各単Pの活動が、コロナ禍を経て少し勢いがなくなっているところがあ

りますし、もっと言えば、PTA活動は本当に必要なのか、市P連は本当に機能しているのか、さらに言えば市P連も必要なのか、もっと上の方に目を向けると、全国のPTA連合会が本当にどんな活躍をしてくれていて、その活動がどれだけ子供たちのため、親のためになっているかということが今非常に問われています。私たちが話題にした移動教育委員会のテリトリーだけで収まらないと思うのです。

来年度については、今この状況の中で、教育委員会として何を求めるのか、移動教育委員会はどうするのかということを探索していく、ベターなものは何かを見つけていく。その中には動画配信の成果も当然入ってくるので、そんなことを一年でしっかり見極めていって、時間を有効に使いたいと思っています。またそのときどきお気づきのこともあると思いますし、ご意見を伺うことが多いと思うので、ぜひ大所高所からのご示唆をいただけるとありがたく思っています。よろしくお祈りします。

田島委員。

■田島委員 施設計画推進室のところですか。非常に大きな福岡の統合があったのですが、これからもいろいろなことで適正化を進めていくということですが、例えば福岡の様子や、今はどんなふうに進んでいるということを出していくコーナー、お便りなどはやっていますか。

■教育長 伊藤施設計画推進室長。

■施設計画推進室長 今協議している落合・神坂では、各協議の後、地域事務所の地域版広報で地域の皆さんにお知らせし広げています。福岡では、統合準備委員会便りでお知らせし、ホームページでも掲載しています。以降も各地域の皆様への情報は、地域版広報や広報を通じてお知らせしたいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 教育委員会にとってはとても大切な事業ですので、できるだけ大きい位置で知らせて常に啓発していけるようにお願いします。

■教育長 統合の成果をしっかりと検証して示しなさいというご意見だと思いますので受け止めてください。

ほかはよろしいですか。

では、学校教育課分について、ご意見、ご質問はありませんか。

山本委員。

■山本委員 7ページ(10)「『仮称 教育指導専門員』の人材配置」のところですか。目的としてマネジメント強化を図るとありますが、具体的にどういうことを想定していますか。

■教育長 氷室教育次長。

■教育次長 一例としては、教育長訪問で学校に出向くと、教育長初め教育委員会の担当がかなり抜けてしまうときがあります。今年度も、そんなときに警報発令が2回あったり、救急搬送があったり、感染症で学級閉鎖、これは学校の設置者である教育委員会が行うことになっているので、教育委員会に校長から連絡があることが多々ありましたが、そのときに早く対応し、迅速に学校の支援もできるようにするのが目的です。業務の安定化を図ってそういった体制を整え、危機管理体制を保持しながら教育委員会としてのマネジメント強化も同時に図っていきたいため、この人事配置を計画しています。

■教育長 山本委員。

■山本委員 そういう学校運営の、主には例外的な事態や人手が足りない場合などに、そういうところを補佐する役割ということでしょうか。

■教育長 氷室教育次長。

■教育次長 それもありますし、学校長を経験した本当に経験豊かな方なので、PDCAサイクルでいろいろな学校からいろいろな課題が上がってくる中で、教育委員会として迅速、適切に指導と見届けを行うために配置したいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 私もそこがちょっと気になっていました。この方がおられるのは教育委員会事務局の事務所ですか。人数は1人ですか。

■教育長 氷室教育次長。

■教育次長 今のところ、教育委員会事務局、いわゆる教育委員会にまずは1人置くよう予算計上しています。東濃各市を見ても、中津川以外の市ではいろいろな部署にそういう学校長、管理職OBを置いて迅速、適正に対応するというところもあるので、中津川市では今までのメンバーで頑張ってきてきたのですが、ここへ来てそういうものを置きたいと思っています。

■教育長 学校教育課分について、ほかはいかがでしょうか。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 校内と市の2つの適応児童教室が教育支援センターと名前が変わるということは、大変良いと思います。移動教育委員会でも「変えました」と言えます。

あと、去年も話したのですが、学校教育課のまとめ方が、(1)、(2)、(9)、(10)などはハード面から題名が書いてあるので、中を読んでいくと、「こういうことをするためにこういう講師を置く」ということが見えてくる。なので、(3)からとは違う。こういうまとめ方しかできないのかなとは思いますが、せっかく(ア)でさらさ講師を配置するなら、「外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質能力を高める」という重要なソフトの目的があるの

で、この辺を太文字にするとか、何か工夫がほしいと思いました。感想です。

■教育長 ありがとうございます。

田島委員。

■田島委員 私のこだわりだけかもしれませんが。8ページの6行目、「中津川市の輝くものづくり、誇りのもてる仕事（すご技）のリストアップ」とあります。誇りのもてる仕事という言葉は、対象になる小学校の生徒に使っているのでしょうか。

■教育長 氷室教育次長。

■教育次長 誇りを持てる地域と言いますか、中津川って素晴らしいところだなという。すご技の前と後で子供たちに調査をしています。「中津川で誇れるものがありますか」と。そうすると、行く前は子供たちの中ではあまり高くないのですが、すご技に行った後では、「こんな誇れることがある」と思う。そんなことを言いたかったのです。誇れる仕事がどれだとかいうことを言っているわけではないので、文面をまた変えます。

■教育長 誤った理解を得てしまうのは残念なことなので、受け取り手がどう読み取るかを少し客観的に見ていただき、修正の必要があるをご指摘いただいたと思うので、修正してください。

ほかはよろしいですか。

続いて、教育研修所分についてお願いします。

山本委員。

■山本委員 9ページの学力アッププログラムについて。うちの子供たちもチャレンジ週刊や学力アップのものを持って帰ってきて、渡されて書いたりするのですが、「適当にやっときなさい」と言ってそのままになったりしています。親も学力アッププログラムにどう向き合っているのか迷い、忘れた頃にポッと来て1週間やって出して終わりというところもあります。子供にもですが親にも向けて、こうやると成果につながるというところを説明していただけるとありがたく思います。見直しをかけるというのは良いことだと思いました。

■教育長 橋本委員もご意見があるようですが。

■橋本委員 私も全く同じで、まとめて「○」を打つというふうで。確かに見直すきっかけにはなるのです。テレビの時間を減らすとか本を読むとか。ですが、改定していただけると嬉しく思います。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 学力アッププログラムも、最初は新鮮で、誰にでも通用する、非常に基本的なところで良かったのですが、長い間続けてくると、生徒一人一人の学力、学習能力に対応したものにするには、本当に基本的なところでしか出せない、紙の

上で簡単にできることしか出せないということになってしまうので、今どうしたらいいかちょっと分かりませんが、いずれ学力アッププログラムをもう少し中身のあ
るものにしていかないと、表面的なやつつけ仕事のようにになってしまうので、本腰
を入れて、今年はちょっと変わったものにしてもらいたいと思っています。

■教育長 教育研修所長。

■教育研修所長 学力アッププログラムについては、現在各学校の教務主任の代表
が学力アッププログラム実行委員会という会議を年4回程度行なっています。その
中で、今後学力アッププログラムをどうしていったらいいかを検討し次年度につな
げていくということをやっているのですが、始まって10年以上経っているこの取
り組みの中で、「本当に成果はあるのか」、「叱ってばかりになっちゃう」、「一
律にやるのは無理、一人一人の子供の実態に応じてやってほしい」など、さまざま
なご意見を頂いています。

そんな中で、子供たちがやることは、学力アッププログラムだけで言えば、年の
最初にがんばる宣言をして、それを年3回出して保護者に見ていただくという、本
当に年3回程度の点の動きになってくると思うのですが、点を線につなげる、日常
の取り組みとしてやっていくというところは、やはり学校の力が必要不可欠だと
思っています。ですので、もう一度学力アッププログラムの意義を保護者やP T A、
市Pの方とも含めて説明しながら、来年度は今一度その取組を活性化していきたい
と考えています。

■教育長 貴重なご意見ありがとうございました。

田島委員。

■田島委員 9ページに、「『学力アッププログラム』→自分から机に向かうこと
ができる子を目指す」という目標が書いてあるのですが、11月頃でしたか、中津
川の児童生徒の現状の説明を頂いたところ、中津川の子供たちは、机に向かう時間
が少ないということが出ていました。一体どうやったら机に向かわせることができ
るか。あまりにも子供たちの周りには楽しいことが多過ぎます。ゲーム、画面視聴
など、それは机の前でやっているとは思いますが、そういう楽しいことがあり過
ぎる中で、なぜ机に向かわないといけないのか、なぜ成績を上げないといけないの
かというのは、やる気の原点のような気がするのです。やる気の原点を探して、ど
うしたらやる気の原点において子供たちがそちらへ向いてくれるかということ
を、引っ張ってあげないと、ただ単に自分から机に向かうことができる子を目指し
ましようと言われても、子供たちは動けないと思います。ゲームや画面視聴よりも
楽しいことが机に向かうことであるのだという形のもっていき方ができないかと考
えます。いかがでしょうか。難しいとは思いますが。

■教育長 松原教育研修所長。

■教育研修所長 「自分から机に向かう子」と言ったとき、例えば宿題の出し方だと、中学校の子なら「自主学習で自由にやっておいで」ではなく、具体的に今日はこちらをやっておいでよとか、授業についても、1時間学んだことが家庭での学習につながっていくような授業の終わりを迎えるということが大事になってくると思います。ただ、それ以上に大事だと思うのが、田島委員が言われたところかだと思います。こんな自分になりたいとか、そういう願いを大事にした上で机に向かう子ということについて、すご技などもそこにつながるとは思います。研修所でもそうした動きを大事にしていきたいと思っています。

■教育長 何かいいアイデアがあったら、またご教示いただくとありがたく思います。

2回ぐらい前の校長会で話をしました。児童生徒が真顔で、「先生、僕はどうして学ばなければならないの？ どうして僕はこんなに辛いのに学校に来なきゃいけないの？」と言ったとき、その言葉を受け止め、笑顔でしっかりと「なぜか」を答えられる職員を育てていますかという問いを、校長先生方にしました。

親も同様だと思います。「なぜ勉強しないといけないの」「どうして学校に行かないといけないの」に対して「それはこうだからだよ」と言える保護者、地域の方、学校で勤める職員になることが今求められていますと。そこをちゃんとやらないといけない。そこが原点です。

学力アッププログラムはそこにまだ十分に応えられていないのかもしれない。以前はその理念がちゃんとあったのですが、少し形骸化して、取り組みを継続することが目的化し、根元にあった理念というか、大人としてのこのプログラムに向かう構えがちょっと見えなくなってきたのです。私の中では明確な答えがあるし、中津川市の校長先生方にはそのことが伝えられると思うのですが、その先にうまく伝わってない気がします。

そこに、各単P等の活動の推進力が少し弱くなっているところも実は関わっていると思うのです。これは学校だけでやるものではなく、親も一緒にやるものだから、特に各単Pの本部役員の皆さんに理念を共有していただいて、しっかり発信してもらおうということをやっていたはずなのですが、ちょっとそこが緩んできている。そういったところにもメスを入れて行かないと更新できていけないと思います。

原点に戻ることももしかしたら結果的にバージョンアップにつながるかもしれないので、そこを目指して来年度しっかりやっていきたいと思っています。

山本委員。

■山本委員 10ページ(8)の教育支援センター等の支援体制の充実(イ)スケー

ルソーシャルワーカーによる支援について、スクールソーシャルワーカーにはどう
いう方が当たっておられますか。また、具体的にどういうことを行なっておられま
すか、教えてください。

■教育長 松原教育研修所長。

■教育研修所長 現在、教育委員会の早川という者がスクールソーシャルワーカー
として勤務しています。子供たちが悩みを抱えているのはもちろんですが、保護者
も悩んでいて相談したいと思っていて、関係機関と繋がっていけばうまくいくので
すが、どうやって繋がったらいいか分からない。そういう保護者に対して、学校を
通じて一緒に面談したり、時にはこちらに来てもらったりこちらから家庭訪問した
りして対応しています。

■教育長 山本委員。

■山本委員 私は仕事柄子ども家庭課から相談を受けることがよくあるのですが、
子ども家庭課との連携はどうなっているのでしょうか。

■教育長 松原教育研修所長。

■教育研修所長 子ども家庭課とはその内容について連携を取っています。今週も
1件家庭訪問があったのですが、それも日時を合わせて一緒に行ったりしていると
聞いています。常に連絡を取り合いながらやっていると思います。

■教育長 教育研修所分についてはよろしいですか。

続いて、幼児教育課分についてお願いします。

田島委員。

■田島委員 11ページの法人保育所事業のところに、(カ)「研修機会の充実
による保育士の資質向上」とあります。(1)の(イ)にも同じものがあります。法
人、公立共に同じものがあるのですが、これは一緒にやっているのでしょうか。

■教育長 安江幼児教育課長。

■幼児教育課長 現在も市の研修に法人さんにも声をかけて、一緒にやっているこ
とがあるのですが、少ないので、令和6年度からはもう少し研修も一緒にやってい
きたいということと、普段の保育でも交流をしていけると良いなという思いで、全
部の事業に「研修の充実」を上げました。

■教育長 田島委員。

■田島委員 そのように積極的に動いていただくのが一番いいことだと思います。
公立が15園で、法人は11園もあり、行く学校は一緒なので、バラつきがあったら
行き違いや戸惑いも出てくると思います。

■教育長 続いて、発達支援センターについてお願いします。

田島委員。

■田島委員 青木さんの移動教育委員会の動画、ありがとうございました。

移動教育委員会は、発達支援センターのものは2つとも対面でやらせていただいております、そのときに親やOBの親たちの寄り場所を上手に作ってくださっていたり、広報の手助けをしていただいたりしていて、大変喜んでおられることを聴くことができました。利用者に寄り添った役に立つ気遣いは本当に素晴らしいと思います。入所者がどんどん増えていく中で気遣いもしていただき、子供たちへのケアも一生懸命やっておみえです。今後も相手の立場に立ったニーズを探して取り組んでいただきたいと思います。

■教育長 エールを送っていただきました。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

では、最後に阿木高等学校についてお願いします。

橋本委員。

■橋本委員 阿木高等学校は、通信をやるという選択肢を考えておられますか。

■教育長 園原阿木高等学校事務長。

■阿木高等学校事務長 現在、設置条例では定時制のみになっています。通信の考えは、今は持っておりません。

■教育長 田島委員。

■田島委員 阿木高校の教員も県の教員ということですが、阿木高校は地域に根差した中津川市立の高校で、中津川市阿木だけではなく、まちぐるみで阿木高を支えるという構想を練っていただきたいと思います。中津川で大事な高校というのは皆さんに意識させるというのはとても大事なことだと思います。例えば教員ではない相談員のような人を置いて、卒業してからの寄り場にするとか、卒業してからも阿木高に気軽に出入りして自分の人生のよりどころにするような相談員を置いて、それを一つのPRポイントにして、たくさんの生徒に来てもらうという構想を私は考えています。本当に大事な高校ですので、上手に阿木高を活用していただきたいと思います。

たくさんの子供たちが来てくれるには、環境、施設はとても大事だと思います。阿木高の重要性を、中津川市内全員に知ってもらえれば、予算も付きやすいのではないかと思います。できるだけ跳ね回っていただきたいと思います。

■教育長 園原阿木高等学校事務長。

■阿木高等学校事務長 強力なご支援ありがとうございます。ただいまのご意見を持ち帰り、校長初め教職員に伝えるとともに、検討の材料としていただきたいと思います。

■教育長 その他、教育委員会全般でもいいので、何かありましたらお願いします。

ないようですので、文化スポーツ部に移ります。順に説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 最初に生涯学習スポーツ部について、ご意見、ご質問があればお願いします。

田島委員。

■田島委員 コミュニティスクールが令和5年度に全部できたということですね。コミュニティスクールは地域との繋がりということが一つあります。文化スポーツ部の司っているコミュニティスクールが全部の学校にしっかりと配置されたということなのですが、教育委員会の方の、例えばふるさと学習が入っているところなどに、コミュニティスクールの範疇のようないところもあるのです。ですが、それが入っていないので、教育委員会の方とうまくタイアップしておられるのかお聞きします。

■教育長 早川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 各学校に学校運営協議会が設置されたものをコミュニティスクールと呼びます。その中で、中津川市は学校運営協議会と地域学校協働活動本部というのがあり、後者は地域の方々が学校を支援するという団体です。これには、どこの地域でも、ほぼ同じ方々が選出されるだろうということで一緒になっているので、非常に分かりにくい点があると思います。それについては、既にコミュニティスクールの中に学校運営協議会、地域学校協働活動本部も加えて、その中で、地域がどんなところで学校の手伝いができるのかを検討していくものになっています。ただ、コミュニティスクールを進めていくコーディネーターがみえて、その方が地域と学校を結びつけるのですが、地域、コーディネーター、学校とで温度差があります。今ひとまずは各学校で動き始めたところですよ。元々コミュニティスクールの仕組みは学校の働き方改革の一部でもあり、学校が今以上に忙しくなるとは本末転倒なので、そこは地域が押しかけで授業をお願いするわけではなく、「今学校で行なっていることのこの部分が手伝える、こういうことができたらいいいね」というのを聞きしながら、学校と熟議を進めていくことが令和6年以降は必要になっていると思います。

ですので、もちろん学校教育課と連携はしていますが、この紙面に載っているか載っていないかの部分については、確認が取れてないところですので、ご理解いただければありがたいと思います。

■教育長 教育委員会からコメントはありますか。

■教育次長 8ページ(5)に「コミュニティスクールの推進」を上げています。今年度市内の小中学校全てで始めています。先日付知地区では、付知のまちづくりの一環として、能登半島地震の協力をしたいとコーディネーターが学校に相談して、学校地域運営協議会で、募金活動を町の人と子供たちのボランティアで土日に行なったと聞いています。

そのように、地域によってうまくいっているところやまだまだのところがあるかもしれません。1月31日に校長会で、地域学校協働活動と学校運営協議会とのタイアップの仕方について、お務めいただいている嶋倉先生にご講話いただき、各学校の今の悩みを聴きながら、各学校が行き詰っているところなども聴きながら、市全体で盛り上げていこうとしています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 生涯学習課がいつもおっしゃっているのは、地域の活性化、学校への理解ということです。いいきっかけになると思います。地域の方々一人一人がコミュニティスクールというものを分かり、それが学校の手助けをする組織だということが全部の耳に入るというところまでまずは周知して、進めていただきたいと思います。

■教育長 ほかはいかがですか。

田島委員。

■田島委員 16ページの「スポーツ活動の推進」の(1)から(7)で、地域が活躍する、一市民1スポーツという部分が読み取れない。地域の方々の、一市民1スポーツの腰が上がるようにする事業はないのでしょうか。

■教育長 早川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 いろいろやっている中でなかなか難しいところだと思います。ここに書いてある中では、(1)では、子供に一市民1スポーツを位置付けながらスポーツに取り組んでいただきたい、スポーツの良いところを知ってもらいたいという取り組みです。(2)では、市内の方も参加される中で、市内外に通じるものという捉え方ができます。(3)は、中津川市全地区でウォーキングコースも設置し推奨しています。その辺は健康医療課などとも連携しながら、介護予防の観点から、まずウォーキングから始めてみよう、ウォーキングが簡単に取り組めるスポーツの一つということで進めています。(3)と(4)が同じような関係のものになります。それと、(7)で休日部活動の地域移行が出てきます。学校の部活動への任意加入により、子供たちが体を動かす機会、スポーツに関わる機会が非常に減ってきているので、そういったところについてはここの中で全て汲み取れるものではないですが、市内の各種団体、例えば体育協会などの社会貢献事業などで、

トップアスリートが来て走り方やジャンプの仕方を教えてくれたりして、体を動かす機会を設けています。そういう中から、1週間に1回でもいいので何かに関わってもらえるような機会づくりが少しずつできればということを目指して、地道な活動を続けていこうと思っています。何かいい案があればぜひご指導ください。

■教育長 田島委員。

■田島委員 各地域にスポーツ推進委員がおられます。私は桃山地区に住んでいますが、桃山地区にもいて、役員会にきています。例えばリレーマラソンがあるとか、ウォーキングをやりますとか、そういう話が少しものぼってきません。とても残念です。一市民1スポーツを唱え始めてからずいぶん時間が経過しています。健康のためにスポーツをするのはとても大事なことだという話を先ほど伺いましたが、本当に市民一人一人の健康を考えてくださるなら、私に「いい案はありませんか」とおっしゃいますが、私としては反対に、私の肩を叩いて誘っていただければ行きます。なので、本腰を入れ、地域密着で、一人一人に語り掛けるような事業を考えて実行していただき、本当の一市民1スポーツを奨励していただきたいと思います。

■教育長 今やオリンピック競技にもなろうとしているEスポーツは、中津川市が考えている一市民1スポーツに該当するのかわ。この点についても考えておいてください。ほかはいかがですか。

次に、図書館分についてお願いします。

田島委員。

■田島委員 図書館として開けておくだけで利用してくれる人というのは、図書館あるいは本の役立て方をよく知っている人で、図書館をどう役立てていいのかわからない人は利用していないということですよ。図書館ではものすごくいろいろな角度から利用者を獲得しようと画策していることはよくわかり、よくやっぴらっしゃると思います。ひと・まちテラスに図書館ができて、新しい利用者を獲得しやすいと思います。しかし、ひと・まちテラスには来るけど図書館には入らない、また、その方々の生活の中には図書館はないという方々に、どうしたら足を向けてもらえるか。

それと、生活や仕事の底辺が広がるようにすごく考えていらっぴらっしゃるのはよく分かります。少しでも豊かな人生の手助けができるように、これからも積極的に動いていただきたいと思います。図書館は誰でも利用できる権利があります。それを御存じない方もおられます。図書がただで借りられるということを知らない方もおられます。角度をそちらにも変えて動いていただけるといいと思います。

■教育長 青木図書館長。

■図書館長 図書館の資料などを普段と異なる切り口でどう身近に感じてもらうか

ということに非常に悩んで取り組んでいます。前の図書館と比べると柱がたくさんできましたので、毎月柱展示というのをしています。旧図書館では1本の柱のところで、いろいろな興味を引くような、皆に知ってほしいこと、社会的現象や生活習慣で気を付けることや秋には運動しようということなど、身近に感じてもらおうとやっているのですが、やはり来ないといけないということもあります。常に来る人には目に留まるので意識していただけたらと思います。来ないと意識しないということであるなら、別のアプローチが必要なのかなと、今お話を聞いて再度認識しました。異なる切り口で興味を引くということは利用の契機になりますので、そういったことを皆意識してやっておりますので、何か案があればぜひ一緒にやっていたらいいと思いますのでよろしくをお願いします。

■教育長 ほかはいかがですか。

では、文化振興課についてお願いします。

山本委員。

■山本委員 19ページ(9)の郷土資料の収集・活用について。昨年中津川のロータリークラブの事業で、戦前戦後からの中津川市の古い写真を集めて整理するアーカイブの事業をやっていたと思います。そういうものも含めて、郷土資料の収集・活用で今後具体的に計画されている事業があれば教えてください。

■教育長 吉村文化スポーツ部次長。

■文化スポーツ部次長 アーカイブの件は市の方針もしっかり定まっておらず、あまり進んでいない部分もあります。苗木領遠山家の文書は、今、国の補助事業で整理して、令和6年度に完了するということで、専門家に来ていただいてやっています。具体的にどのように活用していくかというところまでは、今整理している途中ですので申し上げられないのですが、せっかく収集して整理できたものなので、デジタルでできるのかどうかはこれからの検討になってくると思いますが、できるだけ皆さんに見ていただけるように、せっかく国の補助を頂いてやっている事業なので、活用して展示していきたいと思っています。

■教育長 具体的なプランができた折には、教育委員会協議会等で報告していただけるとありがたいです。

ほかはいかがですか。

田島委員。

■田島委員 19ページの郷土の先人顕彰事業です。前田青邨と熊谷守一と島崎藤村は名前が挙がっていますが、これは全国区でないといけないのですか。中津川には童話の宮口しずえ、これは馬籠の方、そして安江静二、中津川の絵画教室の基にもなった方、そして、役者絵を描く中川とも、彫刻家も確か坂本の出の方がありま

す。全国区ではないですが、かなりのインパクトのある方も出ておられますので、郷土の先人顕彰の、小学校、中学校への市民の出前講座の中で、こういう方々の活躍も、中津川の小中学生に知らせていただくとありがたいと思います。いかがでしょうか。

■教育長 吉村文化スポーツ部次長。

■文化スポーツ部次長 ここには継続しているものを中心に挙げました。博物館での企画展なども、ここに書いてなくてもやっているものはありますので、どこまで事業を広げていけるかというところはあると思いますが、そういう機会を設けて、学芸員の方でそういう準備もできていくと思いますので、できる範囲にはなりますが、ここに載っている方以外もぜひやっていきたいと思います。

■教育長 ほかはいかがですか。

では、最後に鉾物博物館分についてお願いします。

田島委員。

■田島委員 鉾物博物館だけなのがとても惜しいです。各館の予定なども見たいと思いました。鉾物博物館では本当にいろいろな工夫をして実践しておられて、係員の方々の意気込みが伝わってきます。以前の事業計画書と比べ、記載の量は10倍ぐらいあり、格段の差があります。大変頼もしく思っています。コロナ前には鉾物博物館で音楽や、図書館が本を展示して読み聞かせをやっていました。もうそろそろ復活してもいいかなと思います。鉾物は分からないけど音楽は聴きたいから行くという方もおられ、鉾物を見てとりこになる方もおられるかもしれません。遠山史料館で歌舞伎や、最近流行っているキッチンカーで食とのコラボもできるようになった気がします。

それと、コロナ前からですが、教育委員会の現地調査をずっとやっていません。私が覚えているのは、大井教育長のときにトヨタ美術館に行ったことです。それ以降はありません。遠いところに行ったり他の地域に行ったりしないで、頑張っている鉾物博物館、中山道資料館、遠山史料館に、ひよっとすると訪れてない方もおられるかもしれないので、そういうところに行って頑張り具合を見せていただき激励したいと思いますが、河合次長、いかがですか。

■教育長 では、教育委員会の担当課ということで、河合次長からお答えできればしてください。

■河合事務局次長 机上で考えていることは書籍や自分の経験値の範疇で決まってくると思うのですが、やはり、井の中の蛙にならないような、他地域の先進事例や、逆に「この程度なのか」と自分たちの位置を確かめられるような活動は今後必要かなと感じました。

■教育長 市議会議員が議員としての行政視察をされることもあります。かつては教育委員にも他市町村の例えば施設や学校等を見ていただく機会を作っていたこともあります。ここ4年ぐらいはできませんでした。その前のことは私も不承知ですが。中津川の各館も、4人の委員を同時にご案内してご理解いただく機会も大事だと思いますので、担当部、担当課でしっかり検討したいと思います。

ほかはいかがですか。

それでは、全体を通して何かご質問やご意見があればお願いします。

ご異議がなければ、議第1号については、承認ということでよろしいでしょうか。

[異議なし]

■教育長 議第1号「令和6年度中津川市教育委員会主要事業について」は、原案どおり承認とします。

一点確認します。今日実施予定の教育評価委員会の評価結果を経て、今承認いただいた主要事業が変更されなければならないとか、手を加えられる可能性はありますか。

河合事務局次長。

■事務局次長 現時点ではないように感じています。

■教育長 仕事の進め方、順番として、今回どうだったのかを少し気にしています。事前に評価を受けた上でこの承認がされた方が手続きとしてはいいと思っています。過去そういうふうに行っていたかも私はチェックができていないので、詳細分りかねるところが多いのですが、一度確認してみてください。教育評価委員会の評価結果がこの主要事業の承認に影響があるのかどうか、確認をお願いします。

■事務局次長 承知しました。

■教育長 続きまして、議第2号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について」提案説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 いずれもJ Cの役員改選に伴っての変更です。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 承認します。一つ、図書館長に伺いたいのですが、図書館協議会が開かれていたと思いますが、大学生の水野さんの出席はいかがですか。

■教育長 青木図書館長。

■図書館長 毎回出ていただいています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 ありがたいことです。以前に大学生の方をお願いしたときは一度も出てくださらなかったということです。非常にいい方を選びました。

もう一つ、青年会議所のこの方は企業人ということでお入りになるのですが、ホワイトカラー、ブルーカラーという現役で仕事をしている人、スキルアップしたいとか趣味を楽しみたいとか、社会性を広めたいという方々はおられるとは思いますが、一番動いている大人の意見を反映できていないのかなと思います、ちょっと心配しています。

■教育長 青木図書館長。

■図書館長 造詣の深いその分野の方というわけではないのですが、違った切り口でいろいろな意見をいただくということは、ここの委員ではなく我々も新たな刺激になると思いますのでそれはそれでいいのかなと思います。ただ、途中で任期が変わると、いきなり来て資料も事前に読んでも、「何？」ということになるのはどこの協議会でも同じだと思います。その点は事前に丁寧に説明させていただいてはいるのですが、ご本人の感想を直接聞いていませんので、ひょっとするとどこかで「よく分からないな」と思っているのではないかと少し感じています。なぜかという、意見がなかなか出しにくいということをいろいろなところで聞いているからです。

■教育長 ほかはいかがでしょうか。

ご異議がなければ、議第3号については、承認ということでよろしいでしょうか。

[異議なし]

■教育長 議第2号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について」は、原案どおり承認とします。

これをもちまして本日の議事は終了しました。委員の皆さん、長時間にわたりありがとうございました。

事務局から次回の開催日程について、報告をお願いします。

河合事務局次長。

■事務局次長 次回開催日は、令和6年2月14日、水曜日、13時30分から、ひと・まちテラス101活動室にて定例会を開催いたします。

■教育長 次回は、令和6年2月14日、水曜日、13時30分から、ひと・まち

テラス101活動室にて定例会を開催いたします。

以上で、令和6年第1回中津川市教育委員会を終了といたします。お疲れさまでした。

[閉 会 (午後3時51分)]